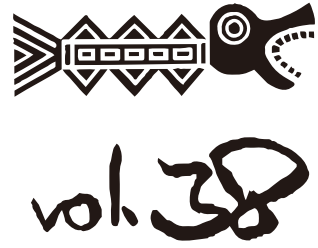


あばさ



特定非営利活動法人 **熱帯森林保護団体** Rainforest Foundation Japan

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20
TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913
MAIL: xingu@rainforestjp.com HP: www.rainforestjp.com

[ご住所等変更ございましたらご連絡いただけますと幸いです]

HOW TO HELP	年会費	大人	5,000円
		18歳以下	3,000円

年会費・寄付金振込先	
口座名	熱帯森林保護団体
ゆうちょ銀行	郵便振替口座 00140-3-144187
三井住友銀行 東京中央支店	普通口座 7066247

※ 銀行振込の方は、必ずお名前とご連絡先を別途、当団体までご一報をお願い致します。

2023年の終わりに思うこと

今年もうわずか。それにしても世界中で理解できないことばかり起きている。ロシアとウクライナの争いが始まり、今度はパレスチナとイスラエルの戦い。これは数千年前から引きずっていた問題だと思うけど、それにしてもイスラエルの強引さはいかなるものかと思う。一部の権力者による欲のせいでいつの世も一般市民が巻き込まれ犠牲になる。

現在ドバイで開かれている国連気候変動枠組み条約COP28で日本を含む22カ国が「2050年までに原子力発電の設備容量3倍を目指す」と宣言。二酸化炭素排出量軽減が理由なんだろうけど、原発事故の問題が日本を含め未解決なのにバカとしか言いようがない。

アマゾンとかかわり来年で35年目を迎える。紆余曲折で、インディオにとって一瞬よい方へと向っているような時もあったが、いかなる政権下でもなかなか状況は改善しない。そもそもブラジルという国は以前は先住の民としてインディオしかいなかったのに。アマゾンの熱帯林は今年7月までの1年間で約9000平方km(鹿児島県に値い)消失し、インディオの多くは森を住処としているので心配である。当団体が支援している「消防団事業」は2014年から開始し、火災発生時に迅速な消火活動が功を奏し大火になることを免れていることが、ブラジル国内で高い評価を得ている。「地球の肺」と呼ばれているアマゾンの森が気候変動や気温の上昇によって、高温と乾燥化に拍車がかかり広い範囲で干ばつの被害が深刻化している。この星の住人である私たち一人一人はこれらリアリティーをどこまで自分のこととして考えているのだろうか? 貨幣制度の文明社会は、日々目の前のことをこなすだけで精一杯なのは理解できるが、ともすれば人間も自然の一部ということを忘れがちだ。自然があってこそ人間はまともな思考が働く。自然は優しくもあるが厳しさも突きつける。このことは4年ぶりにシンガーに入り再確認した。カヤポ族の長老ラオーニを始めとして森で営んでいるインディオの人たちは、自然に対して畏敬の念をもって暮らしている。自然との共生などとはおこがましく、自然への服従しかないと私は思う。ラオーニは生まれた時から今まで、約100年間、森を守ることに人生を捧げてきた。その背中を見て私たちも森を守るお手伝いを続けている。私は森のインディオと一緒に暮らし、「勇気・覚悟・自在性」を持って生きることを学んだ。ラオーニは語る。「森がなくなればインディオは死ぬ。そしていずれお前たちも息絶えることになるだろう」酸素を作っているアマゾンの森が残ることは、次世代への存続につながる。この言葉を胸に収め来年も支援活動に精進する。良い機会なので、来秋にラオーニとメガロンを日本に招待できたらいいなあと考え中。アマゾンの自然とインディオ存続にご協力いただいている方々の応援があってこそ、30年以上も支援活動を続けることができた感謝の気持ちが一杯! 来年もご支援のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。(南 研子)



気候変動対策を話し合う国連の会「COP28」が2023年11月末、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイで開催。



ブラジルから先住民省の大臣ソニア・グジャジャラが参加。アズンの自然を残す重要性をアピールしました。シンガーから映像担当のキセジが様子を記録しました。



photographer kisedje



SONIA GUAJAJARA

長倉洋海「写真カレンダー2024」発売のお知らせ



同じ明るい未来をイメージして歩いているステキな友。アマゾンの写真展がサンパウロで大盛況でした。2月にリオデジャネイロでも催されます。ぜひ、カレンダーをお求めいただきたいです。

長倉洋海が代表を務める「アフガニスタン 山の学校支援の会」より、長倉洋海「写真カレンダー2024」が発売されます。壁掛けタイプ「地球に謳う」と、卓上タイプ「この学校が好き!」の2タイプを作製しました。卓上タイプは、写真を切り離してポストカードにできるスタイルです。どちらのタイプも、売り上げは経費を除きすべて「アフガニスタン 山の学校支援の会」の活動費に充てられます。アフガニスタンが平和になったその時に、子どもたちの笑顔のため、「山の学校」が再び翼となる日が来ます!

【問い合わせ先】「アフガニスタン 山の学校支援の会」事務局
TEL) 070-3281-1180
[e-mail] info_yamanogakko@yahoo.co.jp
【価格】壁掛けタイプ 1部 2,200円(送料込み)
卓上タイプ 1部 1,400円(送料込み)
【お振り込み先】(下記の口座にお振り込みください)
ゆうちょ銀行 振替口座
加入者名: アフガニスタン山の学校支援の会
口座番号: 00160-1-667404
※他行からネット振込される場合は住所が通知されませんので、別途メールで送付先を山の学校支援の会事務局までお知らせください。

はじめまして。今年9月に出版した『アマゾンのふしぎな森へようこそ!』の編集を担当した山林早良です。南さんからはサワラちゃんと呼ばれています。

この本は、私が2000年と2006年に出版された南さんの2冊のご著書を読み、効率化とは真逆の発想で作られている社会のシステムや個人の生き方に共感し、自分の子どもたち(10歳と7歳)にも伝えたいと考えて、南さんに子ども向けの本として執筆のお願いをしたことから始まりました。2022年春のことでした。

唐突ですが、私はふだんから子どもたちに「自分にとって正しいことを選べるようになってほしい」と伝えています。私がかれらに問う「正しさ」は、社会のルールではなく、もちろん親の言うことでもなく、いろんな経験から自分がどう感じたのかを積み重ねて獲得できる判断基準を指します。南さんのご著書を読み、個人の生き方や考え方の「正しさ」も、社会の課題に対する「正しさ」も、インディオたちが教えてくれると感じたのです。

例えば『アマゾン、インディオからの伝言』では、「『無駄・暇・遊び』が堂々とまかり通る世界」という言葉に続いて、子どもたちの姿、母親の役割と子育てのあり方、差別のない社会の様子が次々と具体的に描かれます。すべての人が、大人も子どもも日本だと「障害」とされる特徴のある人も、当たり前自分の尺度で生きていて、自分にとって心地よいことが自由に選択できて、自分の「できること」で社会とつながる——それが何も特別なことではないということに感銘を受けました。

効率化が正義とされる私たちの社会が「サステナビリティ」や「ノーマライゼーション」などのカタカナ言葉を必死に追いかけ、アマゾンではごく自然なかたちで成立しているというのは象徴的なことだと感じています。ともすれば「サステナブル」を冠して原発政策を進めたり、「ノーマライゼーション」の理念を共有しているようで弱者の権利に制限をかける社会への問いかけとしても、南さんのメッセージは響きます。

「どこへ行くの? なにを選ぶの? どう生きるの?」
(『アマゾンのふしぎな森へようこそ!』149ページより)

最後になりましたが、この本は、南さんはもとより、インディオたち、デザイナーの石井勇一さんや章のはじめりに絵を寄せてくださった松田シードさん、そしてRFJスタッフのみなさんに力をもらってできあがりました。この本のエネルギーをより多くの人とシェアするために、ぜひRFJ会員のみなさんの力をお借りできれば幸いです。

「アマゾンのふしぎな森へようこそ!」

～先住民の声に耳をすませば～ 南 研子 著

● 装丁・口絵

ART Is主催者ふくしまアヤさんのパートナー、
今をときめくアートディレクター石井勇一さん

● 章トビラ挿絵

MWアトランティスファクトリー
の30年来の友、松田シードさん



著者 南 研子
出版社 合同出版
価格 1,980円(税込)

お二人のエネルギーに助けを頂き書き上げたアマゾン体験記です。
中学生から大人まで、沢山の方に読んで頂けますよう宜しくお願いいたします。

※RFJホームページ、書店でご購入いただけます

研子さんの話を聞き、その大胆な行動力には唖然とするばかり。そしてアマゾンからの伝言の本を読み、アマゾンの問題の原因の多くは自分たちの生活にあることがわかり、アマゾンに行くなんて怖くてできない小心者の僕は、ここ日本で出来ることを本気でやろうと思いました。

それは日本人の食べ物を国内の原料だけで作るということ。だから化学肥料も畜産堆肥も使えません。何年も試行錯誤のすえついにその方法を確立したんです。

土に入れるのは枯れ枝や竹や落葉だけ。綿100%の衣類だけでも野菜が育つんです。狭い庭でも可。病虫害に強くなるので農薬不要。おまけに味がはっきり美味しくなるので、その楽しさと実益から今日本中に広がりつつあり、既に1万人以上実践中です。今まで敵だと思っていた雑草や虫や菌を味方につける農法でもあります。雑草は光合成で作った炭水化物を土の菌に与えて菌を増やします。害虫は弱った野菜だけを食べて、栄養価の高い美味しい野菜は人に残してくれます。菌は枯れ木落ち葉などの有機物を分解し野菜の養分にしてくれます。窒素肥料も菌が空中から集めます。

落ち葉、木、竹や草、ほとんどは空中のCO2を集めて出来た炭水化物です。これが土の中の菌に変わっていくので、この土づくりが広がるほどCO2が固定されていくのです。菌ちゃん、ありがとう!ですね。そんな野菜は抗酸化成分が多いので人をより健康にしてくれて、同時に虫たちは人のような消化システムを持たないので食べにくくなるわけです。具体的方法は「菌ちゃん野菜作り&菌ちゃん人間づくり」(660円、菌ちゃんふぁーむネットショップで購入)という冊子を見て下さい。

菌ちゃん野菜作り体験は、自然への感覚を正常に戻し、未来への不安感をわくわく感に変えていく最高の体験活動だと、多くの方々を見ていて最近つくづく感じます。美味しい野菜ほど虫は食べない。モグラが来ることで土の腐敗が消え、その結果モグラは来なくなる。草をタネごと大量に入れると土が変わり、背の低い抜き取りやすい草だけ生えるようになる…。生きるための敵だと思っていたらじつは敵ではなかったんだ!みんな一生懸命生きて自然の中の大切な役割を担っていた!この感動は、その人の自然観や価値観を大きく変えていくんです。「この世の中で不要なものなんてなく、自分は地球に生かされている」安心感が生まれます。皆様の力で菌ちゃん野菜作りの楽しさが広がったら、世界はきっと変わると思いませんか。

2005年からRFJの会員として月々42円
いる吉田さん。講演会を企画して
下さり「ふぁーむ」も見学、多くの方々に
この活動が広がりますように!!



菌ちゃんファーム
ホームページ
(ネットショップ)
kinchan.ocnk.net

